

第1学年 社会科学習指導案

〔地理的分野〕

単元名 アフリカ州 ―国際的な支援からの自立に向けて―

場所 : 北舎4階 第1多目的室

学級 : 大野町立大野中学校

1年3組(37名)

授業者: 竹中 智洋

1. 指導の立場

(1) 単元について

学習指導要領に示された本単元での指導内容は、以下の通りである。

(2) 世界の諸地域

次の①から⑥までの各州を取り上げ、空間的相互依存作用や地域などに着目して、主題を設けて課題を追究したり解決したりする活動を通して、以下のア及びイの事項を身に付けることができるよう指導する。

①アジア ②ヨーロッパ ③アフリカ

④北アメリカ ⑤南アメリカ ⑥オセアニア

イ 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること

(ア) ①から⑥までの世界の各州において、地域で見られる地球的課題の要因や影響を、州という地域の広がりや地域内の結び付きなどに着目して、それらの地域的特色と関連付けて多面的・多角的に考察し、表現すること。

本単元では、アフリカ州の中でも、砂漠化が進むサヘルとよばれる地域(中核的なグループとしてブルキナファソ、チャド、マリ、モーリタニア、ニジェールの5か国)を取り上げる。

アフリカ州といえば、貧困というイメージがある。しかし、もともと貧困だったのではなく、様々な要因によって貧困は創り上げられた。その一つであるサヘル地域の貧困と、砂漠化を繋ぐことで、経済、人口、生活への影響など様々な関連を見出し、アフリカ州の貧困の要因の一つを明らかにする。サヘル地域の砂漠化を事例として取り上げることで、生徒が「いま」の問題を地理的な見方で考察し、現代社会とつなげていくことができると考える。そうした学びを土台として、サヘルの「これから」(未来)を、「サヘル地域の砂漠化に対する支援」を通して、「持続可能な社会づくり」の視点で構想することが、これからの時代に求められる資質・能力の育成につながると考える。

(2) 生徒の実態

世界の諸地域の学習では、各地域の地理的特色をつかむために、3つの段階を設定し学習を進めてきた。

はじめの段階では、アフリカ州を自然環境、人口、産業、文化から大観する中で、アフリカの国々が砂漠化、モノカルチャー経済等の様々な課題があり、世界的に支援が必要になっていることをつかんだ。

次の段階では、自然環境を視点とし、サヘル地域で砂漠化が進行していることを提示した。その中で、サ

ヘル地域の中核的なグループの国々の、乳幼児死亡率や飢餓の現状、植民地時代に形成されたプランテーション農業やモノカルチャー経済への依存による問題について理解した。さらに、サヘル地域への支援を続けているNGO団体「緑のサヘル」の具体的事例から、砂漠化の原因に着目させた。その中で、「かつて耕作地であったサヘルで、砂漠化が進行しているのはなぜか」という課題を設定し、サヘルで砂漠化が進行する仕組みと、砂漠化が現地の人々の生活を苦しめていることに気付くことができた。

3つ目の段階は、サヘル地域の砂漠化に対する支援の在り方を通して、サヘル地域の「これから」を考える時間とした。単元を貫く課題の解決に向けて、自己の考えを形成させる時間をとり、その考えを基に、他者との対話を生み出すことで、相互の理解を踏まえた意思決定ができるようにする。

2. 研究との関わり

【研究内容2】について

3つ目の段階の学びにおいて、主張する考えの背景にある「価値」を明確にする。この「価値」とは「様々な問題に対して判断する際に、自身が社会の形成にふさわしいと考えるもの」と捉えている。

まず、黒板に分類された内容から、「今を救う支援(医療・食・水等)」と、「将来を見据えた支援(教育・技術支援等)」を分類して視覚化する。その後、それぞれの支援の在り方のメリットを考え、その支援が「何を大切にしたい支援」なのか問うことで、今を救うとは「生命尊重」を重視した支援であり、将来を見据えるとは、「自立」を重視している支援であることを理解させる。こうして自己の考えの背景にある「価値」を自覚させる(価値の明確化)。その上で、どちらも「サヘル地域の砂漠化に対して必要な支援」であることを押さえ、サヘル地域の砂漠化の現状を踏まえたうえで「生命」か「自立」か、のどちらの考えで判断するかを問う。教師が話し合いをコーディネートして、それぞれの意見の主張に終始せず、「価値の比較」を生み出すために、「なぜその価値を尊重するのか」と論点の明確化を図ったり、「本当にそうなのか」と批判的思考を駆使したりしながら交流を進める。そして、他者の尊重する「価値」を踏まえた上で、自己の考えを再構築する営みによって、考えの深まりを実感させられると考える。

3. 単元構造図(全6時間)

【単元のねらい】

アフリカ州が過酷な自然条件や歴史的・社会的条件から生活への困難さを抱えていることを、人々の生活などと関連付けてとらえたり、中核となる学習としてサヘル地域を取り上げ、「サヘル地域の砂漠化に対して、どのような支援が必要なのだろう」を考察したりすることを通して、アフリカ州の地域的特色を理解する。

【単元はじめの生徒の意識】

アフリカ州北部の大部分はサハラ砂漠であり、アフリカ州の多くが乾燥帯に属している。「世界のさまざまな地域」の乾燥帯の学習では、サヘルとよばれる地域で焼畑農業が行われ、砂漠化が進行していることも学習した。砂漠化を防ぐための国際的な取組も行われていた。

【①②アフリカ州をながめて】

課：アフリカ州を大きく眺めると、地理的にどういった特色のある地域なのだろうか。

<ねらい>

アフリカ州の特色を、自然・人口・産業・文化の4つの視点に分けてまとめ、資料から読み取ることができる。
(知・技)(主体的)

<生徒の意識>

自然環境では、赤道が通っており熱帯の地域もあるが、サハラ砂漠があり乾燥帯の地域も多い。人口は農村から都市へ移り住む人が多く、各国の首都中心に人口が集中し、州全体で人口は増え続けている。産業では、多くの国でプランテーション農業が行われており、栽培された農作物は重要な輸出品となっている。鉱山資源も豊富で、採掘されたレアメタルは重要な輸出品である。多くの国の経済は、少ない種類の農作物や鉱山資源を輸出するモノカルチャー経済である。産業の発達は遅れていて、国際的な援助を受けている。文化では、ヨーロッパの植民地時代の名残が残っている。アフリカ州が抱える課題の中でも、サヘル地方の砂漠化の進行による人々への影響は深刻だ。サヘル地域では砂漠化によってどんな問題が生じていて、どのような支援が必要なのだろう。

【単元を貫く課題】

サヘル地域の砂漠化に対して、

どのような支援が必要なのだろう

事実に関する認識の獲得

【③ サヘル地域の現状】

課：サヘル地域の国々には、どのような特色があるのだろうか。

<ねらい>

サヘルの中核となる国々(ブルキナファソ、チャド、マリ、モーリタニア、ニジェール)の主題図や貿易統計を読み取ることを通して、サヘル地域の国々が、砂漠化、モノカルチャー経済、衛生環境など様々な課題を抱えていることに気づき、国際的な支援を必要としていることが分かる。(知・技)

<生徒の意識>

サヘル国々は、単一作物や単一の資源に頼っているため、毎年安定した収入を得ることができないという課題がある。また、5歳未満児の死亡率も、世界の中でチャドが2位など、どの国も20位以内(2017年)に入っており、衛生環境や食料にも課題があることが分かった。さらに焼畑農業などで砂漠化も進行している。サヘル地域は、貧困や砂漠化など、多くの問題が生じていることが分かった。

【④ サヘル地域の砂漠化】

課：かつて耕作地であったサヘルで、砂漠化が進行しているのはなぜか。

<ねらい>

サヘルが耕作地であったのに砂漠化が進行している理由を、「食料の確保」、「人口の増加」、「貧しさから脱却するための開発」等の視点をもとに追究することを通して、砂漠化が進行するサイクルが現地の人々の生活を苦しめていることに気づき、そうした課題に対して日本からも国際的な支援が行われていることが分かる。(思・判・表)

<生徒の意識>

サヘル地域で砂漠化が進行するのは、経済的貧しさを脱却するために行った人口増加、食料・経済力を得るための開発が関わっていることが分かった。これはサイクルになっていて、砂漠化の進行を放置しておくより更に生活が貧しくなってしまう。生活に関わっているからこそ、NGO団体「緑のサヘル」の支援では、まずは生活の保障をし、そこから木を植えることで、自立につなげていることが分かった。支援にも様々な考え方や方法がある。サヘル地域の砂漠化にはどんな支援が必要なのだろう。

価値に関する認識を形成

【⑤⑥ 「いま」と「これから」を救う支援】

課：サヘル地域の砂漠化に対して、どのような支援が必要なのだろう。

<ねらい>

サヘル地域の現状や課題を踏まえ、サヘル地域の砂漠化に対してどのような支援が必要かを考える活動を通して、自己の考えの判断基準を明確にし、他者との対話によって、他者の判断基準と自己の判断基準を比較することを通して、相互の理解を踏まえた意思決定をすることができる。(思・判・表)(主体的)

<生徒の意識>

最初は、砂漠化を止めるために木を植えればよい、と考えていたが、それはサヘル地域の砂漠化に対して効果は薄いと分かった。なぜなら、サヘル地域の砂漠化を引き起こしているのは、サヘル地域に住む人々自身でもあるからだ。生きていくために過伐採や過放牧、焼畑農業が行われている。私は、そうした生活を変えるためには、働く場所をつくりだす支援が必要だと思った。そうすればモノカルチャー経済などの課題も解決できるかもしれない。しかし、〇〇さんの意見のように、砂漠化の要因である食料不足による過放牧や伐採をとめるためには、確かに食料を送る支援も大切だと思う。また〇〇さんの言うように医療支援も必要だ。それでも私は、サヘル地域の人々の生活の基盤をつくるのが砂漠化を止めることになると思うので、「自立」に向けた支援を優先すべきだと思う。

【単元出口の生徒の意識】

「サヘル地域で砂漠化が進む理由」と「サヘル地域の現状」を踏まえ、サヘル地域の砂漠化に対する支援を考えることで、地域に暮らす人々にとって必要な支援は何かを考えることができた。アフリカ州ではサヘル地域以外にも様々な課題を抱えている地域がある。そういった地域に向けて支援を行う際には、今回学習したように、まず問題の原因を明らかにして、現地で生活する人々のことを考えて支援することが大切だと感じた。

4 本時のねらい

サヘル地域の現状や課題を踏まえ、サヘル地域の砂漠化に対してどのような支援が必要かを考える活動を通して、自己の考えの判断基準を明確にし、他者との対話によって、他者の判断基準と自己の判断基準を比較することを通して、相互の理解を踏まえた意思決定をすることができる。

5 本時の展開

過程	学 習 活 動	研究内容について
導入 展開前段 展開後段 終末	<p>1. 学習を振り返り、本時の学習課題を確認する。</p> <p style="border: 1px solid black; padding: 5px;">サヘル地域の砂漠化に対して、どのような支援が必要なのだろう</p> <p>2. 全体で交流を通し、考えを広める</p> <ul style="list-style-type: none"> ・砂漠化の原因として焼畑農業や過放牧などがあつた。そうしなくてはいけないのは、食糧が不足しているからだ。そうした問題を解決するために、食料を送る支援が必要だと思う。それが焼畑農業や過放牧を止めることにつながり、砂漠化という問題の解決につながる。 ・サヘル地域では安全な水の確保ができず、汚い水を飲んでおり不衛生である。井戸が普及すれば、短時間で安全な水を確保できるようになる。砂漠化が進み乾燥帯が広がるサヘル地域では、人々が生きるために安全な水を飲めるようにする支援が必要だ。 ・サヘル地域では、5歳児未満の死亡率がどの国も高い。現状を踏まえて、まず医療支援など人命を救う支援を優先すべきだ。砂漠化を止めることも重要だが、まずは人命を優先する支援をすべきだ。 ・木を植える支援が必要だ。学習した NGO 団体の支援からも、砂漠化は止めることができる。砂漠化を止めるためには、木を植えることが必要である。だからまず、木を植える支援が必要だと思う。 ・サヘル地域では、木を切った薪を燃やして火をおこしていた。そうやって木を切ってしまうから、砂漠化は進行し続ける。現状を変えるために、時間はかかるかもしれないが教育を通して環境への意識を高め、現状を変えることができる支援がサヘルに必要だ。 ・人々の生活をつくる支援が必要だ。サヘル地域では、生活するために過度な木の伐採が行われている。それを止めることができれば、砂漠化の進行を止められる。だから NGO 団体「緑のサヘル」のように、まずは木を過度に伐採しなくてもよい生活をつくる支援が必要だ。 <p>3. 価値を浮き彫りにすることで自覚させ、全体で共有する</p> <p>人的、物的、資金援助を通して、人命を優先する支援</p> <p style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">「生命」を救う支援</p> <p>将来的な自立を目指し、地域の開発を行う支援</p> <p style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">「自立」のための支援</p> <p>4. 価値の異なる仲間との交流を通して自己の考えを再構築する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・砂漠化の進行で貧困が拡大しているサヘル地域では、今もなくなる人や飢餓により苦しんでいる人が多くいる。サヘル地域の現状を踏まえると、まずは人々の生命を救うことができる支援が大切だと思う。その後に砂漠化を止める支援を行えばよい。今のサヘルの現状を考えると、未来よりも今を救う支援が必要だ。 ・人材を育成し、生きるために必要な技術を自らが身に付けることで、自分たちの力で自国を発展させていくことができる。そうすれば、砂漠化の進行も止めることができる。サヘル地域の現状から、目の前の命を救うことの必要性も感じるが、地域の未来をつくる自立のための支援を行わないと、砂漠化のサイクルは止められない。 <p>5. 本時のまとめを行う</p> <p style="border: 1px solid black; padding: 5px;">最初は、砂漠化を止めるために木を植えればよい、と考えていたが、それでは効果は薄いと分かった。なぜなら、サヘル地域の砂漠化を引き起こしているのは、サヘル地域に住む人々自身でもあるからだ。生きていくために過伐採や過放牧、焼畑農業が行われている。そうした生活を変えるためには、働く場所をつくり出す支援が必要だと思った。そうすればモノカルチャー経済などの課題も解決できるかもしれない。しかし、〇〇さんの意見のように、砂漠化の要因である食料不足による過放牧や伐採をとめるためには、食料を送る支援も大切だと思った。また〇〇さんの言うように医療支援も必要だ。それでも私は、サヘル地域の人々の生活の基盤をつくるのが砂漠化をとめることになると思うので、「自立」に向けた支援を優先すべきだと思う。</p>	<p>・記述内容、発言内容において思いが先行し、根拠の正確さに欠けた場合、「どこから」「なぜ」と問い返すことで根拠を明確にして伝えるようにする。 【研究内容 2】</p> <p>・「その支援をするとなががいいのか」を考えることで、交流で広がった考えを焦点化し、価値に関する認識を形成できるようにする。例えば、「現地の人に教育をすることがなぜいいの」と問うことで、「将来の自立につながる」という価値を見出させる。 【研究内容 2】</p> <p>・価値を全体で共有した後、「どちらでもサヘル地域の砂漠化に対して必要な支援である」ことを押さえ、「サヘル地域の砂漠化の現状を踏まえたうえで、必要な支援は生命か自立かどちらで判断するか」を問うことで、考えの再構築を促す。 【研究内容 2】</p> <p>・自らの考えを主張し合うだけに留まってしまうないように、「対話」を生み出すための支援を行う。例えば、「なぜその価値を尊重するのか」論点の明確化を図ったり、批判的思考を駆使したりしながら交流を進める。 【研究内容 2】</p> <p style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> 評価規準【思考・判断・表現】 【主体的に学習に取り組む態度】 サヘル地域の砂漠化に対して必要な支援の在り方を、仲間との対話によって見出された「価値」を踏まえ、自己の考えを再構築して、表現している。 (記述内容・発言内容) </p>